すなっぷ

さりげないスナップ写真のすてきな笑顔のように
群馬の教育や文化の話題を、ふだん着のままで紹介するシリーズ

若者は現場で育つ！現場は若者自身が作る！

高崎経済大学大宮ゼミで生まれたＤＮＡ

読者のみなさんはＤＮＡをごぞんじでしょうか。高崎市にある高崎経済大学の学生さんたちを中心とした若者によって２００４年に設立されたＮＰＯ法人です。彼らの使命とするところは

★若者の社会活動の場を確保し、社会の中で自分らしく輝いて生きていく力「社会力」を養う

★若者のネットワークを広げ、生き方・働き方をデザインする力「キャリアデザイン力」を養う

の２点。「デザイン」「ネットワーク」を追求する「アソシエーション＝連合」でＤＮＡ。代表は現在、高崎経済大学大学院１年の沼田翔二朗さん。ＤＮＡの活動の場の一つであるジョブカフェぐんま高崎センターに彼をたずねた。

沼田代表理事にきく

スタートは高崎経済大学地域政策学部の大宮登教授（同大学副学長）。先生は社会学が専門。ゼミでは地域づくり・能力開発をテーマにしています。大宮先生は現代の若者を取り巻く状況をこう考えています。

個人化する社会

現代は個人化する社会、人と人とが関わろうとしない社会です。高度成長期以降、さまざまなコミュニティーが衰退、崩壊して人々のライフスタイルが変わりました。社会構造が崩壊したとも言えます。この状況がますます進行し、今の若者はメール、ツイッター、フェイスブックなどのコミュニケーションが可能になり、豊かに関わっているように見えますが、顔と顔を合わせたコミュニケーションを苦手とする人が増えています。そして若者の社会力が低下する結果を招きました。

ジョブカフェで取材に応じる
沼田翔二朗代表理事（左）

打開策は現場にある

このような状況を打開するために大宮先生は大胆な策を打ち出しました。先生は社会力を育てるためには「現場感覚を育てる」必要があるというのです。大学で「研究する」ことよりも実際に社会に出て人と人との関わりの中で力をつけるべきだと。さらにその「現場」を学生自身で作り上げることを提唱しました。そして生まれたのがＮＰＯ法人ＤＮＡです。２００４年のことでした。

学生が中心になって運営

学生のための現場ですから運営はすべて学生が担います。主に大宮ゼミに所属する３年生が中心になり、４年生がサポート。さらに１、２年生や他の大学、短大、高校生の会員　を巻き込んで４つの事業を展開しています。(４つの事業については次頁の図参照)

課題は地域との関わり

これまでの目的は「若者の成長」でした。若者の成長にスポットを当てて、１年交替で役割を担い、成果を後輩に伝えてきました。人は変わるがやっていることは同じ、という側面と、人が変わることで経験値が落ちてくるという側面とがあり、何か足らない感じがしました。それが地域に対するＤＮＡの価値ではないかと考えました。これを高めることで同時に若者の成長のチャンスも豊かになるのではないかと考え、今年から地域との信頼をより強く築くことを新たな使命に加えました。

大切なことは変わらない

大切なことは信頼ネットワーク。今までと変わりません。信頼がないと何も始まらない。議論しながらの飲み会でも大いに信頼が築かれます。

遊ぶひまがない

４つの事業を廻している事務局員は毎週集まっています。それぞれの事業の中で会議が行われ、会議は放課後や夜間、深夜。関わり方は自由だが、一生懸命に取り組むと遊ぶひまがない。

私にとってのＤＮＡ

私、沼田は北海道出身。高経大入学は本意ではなかった。一年次、理想と現実のギャップに苦しんだ。大学とはもっと人と人とが熱く語るのかと思っていた。人と関わるのをやめて学校と家とアルバイトの毎日を送った。友達を作る気持ちもなかった。個人化する社会の一員だったと今振り返って思う。社会と関わるのが嫌になった。自分の気持ちを言う必要なく、気楽に生きていた。そんなある時、人と関わらないことが気楽である反面生きづらさにもつながると感じた。大宮先生とは１年生の時に日本語論文指導の授業で出会い２年次からＤＮＡに参加した。自分を変えたいと思った。学生の多くが自分と同様の思いからＤＮＡに参加する。ＤＮＡにはその力があります。人と関わるのが好きかと聞かれると迷う。人との関わりの楽しさを知っているが、辛いことや面倒くささも知っている。それでも多くの人たちと関わっていきたいと思います。

ＤＮＡ・４つの事業部

ＤＮＡ発行のパンフレットをみせてもらった。そこには４つの事業部が紹介されています。

Job-cafe 事業

平成２４年度コンセプト

☆出会った人を笑顔あふれる
未来につなげる attendant

【アテンダント業務】
ジョブカフェぐんま高崎センターで受付業務をしています。来所者対応、企業対応、電話対応、施設管理など
「すべては来所者の笑顔のために」をモットーに業務の質、意識の向上を図っています。

【就職支援セミナー】
就職支援セミナーの企画・運営をしています。
就職活動における知識や働くことについて考えるきっかけを提供し、学生の視点を強みにして若者の就職支援をしています。

CANWORK 事業

平成２４年度コンセプト

「新しい視野と出会いがある場所作り」
【企業と若者の交流会２０１２】
若者・県内企業・社会人の出会い作り！
６月・９月・１１月の年３回開催予定！
【CANWORK 取材】
企業取材…県内事業を若者目線で取材し、発信！
人取材……魅力的な社会人を若者目線で取材し、発信！
企業・社会人・年代を超えた学生の出会いの場所作り
色んな出会いを CANWORK 事業では提供します！

まちづくり事業

平成２４年度コンセプトは
「みんなを地域のパートナーへ」です。

より多くの人が人や地域と繋がれるような活動を行います。
・団体を超えたかかわりの場創出。
・若者の力を地域社会に投入。
・地域に存在する魅力の発見＆発信。

radi-com 事業

平成２４年度コンセプト
「あなたが地域とつながりたくなる情報発信」
ＦＭラジオ・ラジオ高崎の番組「ラジコム」にて、**《あなたがまちと知り合う時間》**をテーマに、高崎の魅力的なイベント、場所などを、創っている方々の想いと共に、学生目線で発信しています。
ラジオ高崎 76.2MHz にて毎月第１、第３日曜日　18：00　ON AIR!
★大募集
「ラジコム」で流してほしい曲、取り上げてほしいお店、団体、イベント…などは
dna_radicom@yahoo.co.jp まで！

job-cafe 事業

アテンダント業務と就職支援セミナーの開催がその主な内容。アテンダント業務は高崎駅西口にあるジョブカフェぐんま高崎センターで就職希望の若者や企業からの訪問者への対応、電話での応対を行う。「学生にとって社会人との会話は慣れないもの。最初はおどおどする。失敗の連続。クレームをつけられることもある。でもそれに対応する方法を考えることが成長につながる」と沼田さん。

この日のアテンダント担当は山田さん

CANWORK 事業

企業と若者の交流会を年に３回開催している。今年度のコンセプトは「新しい視野と出会いがある場作り」。新しい視野について沼田さんの説明に納得しました。

･･･就職の情報交換や企業説明会に終わらないように工夫している。６月に行われた企業との交流会では、従業員の方に出席してもらい、企業での経験をじっくりと語ってもらった。「就職試験」「採用」は学生にとって企業や社会を知るための貴重な機会。面接や筆記試験の準備に終わらせないためのプログラムを用意することに苦心している。スタッフが企業や協会の担当者と交渉すること自体がまたすばらしい勉強の機会になる･･･と強調する。

CANWORK 実行委員会を取材

ジョブカフェでの取材を切り上げたあと、取材班は高崎経済大学に移動。実行委員会にもおじゃまして学生のみなさんの議論の様子を見せてもらいました。

この日の議題は、今年度あと３回開催される「企業と若者の交流会」について。「ブレインストーミング」の実施方法、「広報活動」についてなど、それぞれ班別の協議が行われました。参加するのは高経大の学生のほかに、他大学、短大、高校からのスタッフ４０人ほど。これほど活発に話し合いをする若者を見たのは久しぶり。いまどき珍しいのか、私たちのアンテナが低いのか！とにかく若者のエネルギーに圧倒されました。

CANWORK 実行委員会で新スタッフ紹介

実行委員にインタビュー

CANWORK 実行委員会開始前の３０分間で慌ただしく３人の実行委員から話を聞きました。

◆須賀　望さん

ＤＮＡ事務局長を務める須賀さんは大宮ゼミの３年生。地元群馬県富岡市の出身。

人の温かみを感じる集団

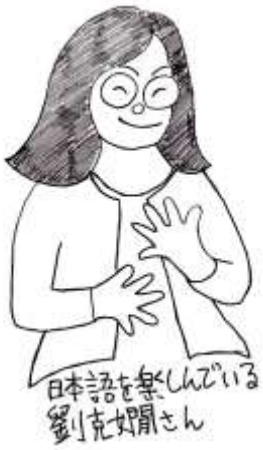
「入学してみたら期待していたほど授業が面白いと思わなかった。サークル、部活に楽しみを見出す学生が多かった。そんな中でとった大宮先生の地域づくり論が面白かったので２年次のゼミ選択では迷わず大宮ゼミを選びました。

そこで立ち直りのきっかっけをつかむことができました。それでＤＮＡに参加することにしました。人と関わる機会が多い中で（ＤＮＡに入る前は一人でこなしていたけれど）チームでなくてはできないこと、人の力を借りて初めてできることに出会ったんです。ＤＮＡは人の温かみを感じる集団です」。

◆劉克嫺さんは留学生

劉克嫺（りゅうこくかん）さんは中国から日本にきて５年になる。高崎経済大学地域政策学部４年の女子大生。

しゃべらないと何もできない



「最初の１年間は前橋の日本語学校で日本語勉強しました。去年３年生の時にＤＮＡの CANWORK 事業部に入って、今年は３年生の支援をします。２年生の時から大宮ゼミに入っていました。

日本語がへたです。だから最初は留学生とばかり話していた。でもせっかく日本に来たから、日本の友達つくらないと意味ない。ＤＮＡに入って日本人といっしょに活動するようになったけれど、しゃべらないと何もできない。だから勇気だしてしゃべった。他の学校の学生や高校生とも知り合うことができた。大宮ゼミの魅力は大宮先生が優しいところ」と語る劉さんの顔も日本語もいきいきとしていました。

◆小島拓也さん

小島さんは高校３年生。昨年からＤＮＡの活動に参加し今年からＤＮＡ会員。

人と語ることに魅力を感じました

「語る能力を高めたいと思って入りました。大学生が人前で語るところを見て、人と語ることに魅力を感じたからです。社会に興味をもち、日常生活のいろいろなことに関心をもつようになりました」。

多彩な人材を抱えるＤＮＡ

ＤＮＡのほんの一部のメンバーへのインタビューでしたが、出身地も参加のきっかけも異なる人たちが沼田代表と同様に「豊かな学生生活を送りたい」という願いをもって集まっていることを確認することができました。

まちづくり事業

この事業部はブログを展開し、まめに更新している。そこから情報と写真を拝借しました。

まちづくり事業部は高崎市内で開催されるイベントに参加し、市民とともに地域の活性化に関わっています。８月４日（土）、５日（日）に開催される高崎まつりでは子どもたちが楽しめる企画を提案中。お姫様探しの冒険が始まるらしい。先日、そこで使われる竹鉄砲を試作したとのこと。出来栄えはどうだったのでしょう。

９月には箕郷町で開催される狐の嫁入り華行列にも参加するそうです。

高崎まつりのための竹鉄砲を完成させた小池君

radi-com 事業

これは高崎市のＦＭ放送局ラジオ高崎の番組「radi-com」に登場する事業です。毎週日曜日１８時から３０分間の番組で県立女子大、前橋工科大と高経大ＤＮＡの３団体が参加。高経大ＤＮＡは第１、第３日曜日に登場します。各団体が自分たちのコンセプトをもって参加しますが、ＤＮＡは自分たちの事業の主旨から、聞く人と地域をつなぐための魅力的な人や店、食べ物､イベントなどの情報提供を心掛けています。

収録を取材。４月から担当になった土屋さんは､｢マイクの向こうの人と対話する緊張を感じながらも感性を磨く場になっています｣と語り、ブラジル国籍のピレス君は、「radi-com に関わることの対価は学び」と素晴らしいことを言います。日曜日の放送を聞きました。二人ともまるでプロのような落ちついた語り口でした。

大宮教授に聞く

授業の合間をぬって取材のための時間を割いていただきました。実り豊かな取材でした。

大学生時代は人生の核

個人化社会を作ったのは私たちですから、若者がそこで生きて行く力を育てることは私たちの世代に課せられた使命です。高経大にきて１７年になるがそのことにずっと携わってきました。そして８年前にＤＮＡを発足させました。

キーワードは４つ

「学生が主体」「チームをつくる」「現場に出かける」そして「大人と関わる」の４つ。try and error の精神も大切。失敗から学ぶことが多いのです。

大宮の役割は

最初は私の手作りでした。CANWORK から始まった初期は学生を自宅に呼んで話し合い、食事会をしながら活動していました。事業がひろがってきた今はそれはできない。しかし現在でもいっしょに考え､学生が困った時には助けます。

大宮先生は優しい？

学生たちは私のことを「優しい」と表現するようだがたしかに優しい。元気のない学生には声をかけます。相談にものります。しかし私の意見もしっかり伝えます。学生の人格を尊重しながら、時には厳しい意見も率直に伝えます。それが本当の優しさでしょうか。

NOW AND HERE！

高経大に限らず、大学入学直後の学生の多くが夢と現実のギャップに悩むものです。青年期の「自分探し」ですね。その課題に向き合うのは学生自身。しかし迷ったまま方向転換しても何も変わらない｡｢やることをやってから決断せよ」と伝える。Now and Here が私の座右の銘です。『今ここでやれることを全力で！』、その経験が人生のコアになるのです。

課題は継続

この事業の課題は「継続」です。９年目を迎えられたのは学生が継続のためにあらゆる仕掛けを考えてきたから。チームを作り、合宿し、分厚い報告書を作ることはすべて継続のため。花見、食事会などの遊びも必要。最近では卒業生が会員となって参加してくれる｡まさに継続｡

取材を終えて

若者たちの明るい表情、真剣な討議、しっかりした言葉づかいがとても印象的でした｡みなさん魅力的｡仕掛け人の大宮先生は確かな理論と学生さんたちに対する愛情の土台に建つ家の大家さん｡｢私はもういらない｣なんておっしゃいますが､ＤＮＡにとっても学生にとってもなくてはならない存在だと感じました｡ＤＮＡ活動を通じて学生のみなさんと地域の信頼がたかまり､お互いが成長、発展することを心から願っています｡

お忙しい中､快く取材に応じてくださったみなさんにお礼申し上げます｡写真や図版を貸してくださったことに感謝いたします｡

《取材・撮影・イラスト：倉林順一・瀧口典子・平井敏久／写真提供：ＤＮＡまちづくり事業部／タイトルのイラストはＤＮＡパンフレットの図版を編集させていただきました》